



l'existence précède l'essence (実在は本質に先立つ)

◆ キャリアガイダンス講演会 ◆

12月3日の金曜日、社会で活躍する都留高校のOB・OGの方からお話を聴く企画、キャリアガイダンス講演会が行われ、7名の方が1年次生のために来校してくださいました。今回講師を務めてくださった方々は廣瀬校長先生や駒田先生、榎本先生、山口先生などの同級生や教え子でもある方です。

そのなかで、山梨県職員である天野陽子さんの話の一部を紹介します。天野さんは、自ら行動することの重要性をお話してくださいました。天野さんは自身の経験から、外に出る → 経験する → 自分が変わる ので、「なにか新しいことを始めるのは、それを半分成し遂げたことと同じだ」とお話ししていました。また天野さんは、本校理数科出身ということで、高校時代の勉強についても教えてくださいました。そのなかで、勉強については「攻めの姿勢」が大事だとおっしゃっていました。

勉強における「攻めの姿勢」の意味がわかりますか？ 私にはわかりませんでした。が、「攻めの姿勢」の意味を質問してくれた立派な生徒がおり(積極的に質問するという行為はちょっとした社会貢献ですね)、彼のおかげで私はその意味を知ることができました。ありがとう。

勉強における「攻めの姿勢」とは、“やらされている”という受け身ではなく前向きに取り組む、先生が10ページ予習してくるよう指示したら30ページ予習する というような意味、そう一主体的な学習ーのことだったのです。今も昔も成績が伸びるには主体的な学習が重要だったのですね。

「この中から何十年後かに、講師として後輩の前に立つ人間が出てほしい」。講師の方の話に目を輝かせながら耳を傾ける1年生を見ながらそう思いました。

◆ 東京都立大学訪問 ◆

12月9日に、1年5組の生徒はSAプロジェクトの一環で、東京都立大学 南大沢キャンパスを訪問しました。この行事で学んだことは、1月7日の年次集会内で5組の生徒から発表してもらうことになっていますので、楽しみにしてください。ここでは1人の生徒の振り返り例をのせて共有しておきます。

■ 本日を振り返って

たくさんの方の講義を聞くことができ、自分の知識に深みが増したように感じる。中には難しく理解が難しかった内容もあったけれど、金先生がおっしゃっていたように、関係ないと思った知識も巡り巡って他の場面で生きてくるから、今回教えていただいたことを今後の生活にも最大限活かしていきたいと思う。

また、今回自分たちの探究活動の発表に対してたくさん意見やアドバイスをもらうことができ、収穫の多い1日だった。質問もたくさん出て、もっと質問の時間が欲しかったと思えるくらいだった。質問が出るということは、それだけ真剣に話を聞いてよく自分で考えられたということだから良かったと思う。
(略)

※) 波線部は加筆

◆ 躍進賞 ◆

12月6日に、10月30日に受験した進研模試の成績表が本校に到着しました。今回受験した進研模試では、7月に受験した進研模試に比べて、成績を向上させた生徒が67名います。そのなかで、成績の向上が顕著だった生徒に「躍進賞インタビュー」を行いました。以下でその中身を共有します。次回進研模試に向けての成績向上の秘訣が詰まっています。3分で読めますので、今すぐ読んでみましょう。

+9

学校からの課題にしっかりと取り組み、ダラダラとせずに短時間で集中して一気に取り組むことを意識しました。

また、一回解くだけでなく、分からなかった問題は複数回取り組むことで定着させて、解説をしっかりと読みました。

+7

- ・基本的に授業でやった内容は授業の中で覚える
- ・難しい問題は1回自分でやってみて無理そうなら解説を見て解く方法を確認し、時間を空けてからもう1回やってみて解けなかったらもう1回同じことを繰り返す
- ・暗記すべきものはその単語のイメージや似ている言葉を探して、それを基盤にして覚える 例)instance = in + stance
- ・分からない英単語はすぐに調べる
- ・基礎は確実に理解する

+7

前回の進研模試までは、週末課題を少し適当にやっていた。しかし、成績が伸びなかったので、読むナビや SWITCH などの週末課題を、少し時間を掛けて丁寧に取り組んだ。また、4プロセスはB問題や応用問題を重点的に取り組んで、一人で解き切れるようになるまで繰り返した。過去問は、はじめの方は時間を気にせず、解ききることと、本質的な理解を深めることをメインとし、最後は時間を意識して取り組んだ。

+6

7月の進研模試の結果を見て、このままではまずいと思い、過去問をしっかりと解きました。分からなかったところや間違えたところは答えをうつすだけでなく、「なぜ」こうなるのかを考え、解き方なども一つ一つ確認するようにしました。また、どうしても解けない問題などに時間をかけすぎるのではなく、基本や少し発展した問題など自分の中でのレベルを決めて取り組むようにしました。

+6

- ・苦手な分野を分かるまでやった
- ・メリハリをつける
- ・模試の過去問を理解できるまで解いて、解説をしっかりと読んだ。
- ・隙間時間を活用した

+6

- ・授業で分からなかったことはそのままにせず、先生に聞いて理解をし、ノートにまとめた
- ・教科書に自分が見て分かりやすいように書き込みをした
- ・ルーズリーフに時制の繋がりを意識してまとめた
- ・分からなかったところや重要なことをメモし、机に貼っていた

+5

課題などをただやるだけでなく、解説を読んだ。また、家庭学習の環境を変化させてみた(イスや勉強時間を変えた)。こうすると勉強に対する意識も変化した。苦手科目については、模試、入試に出やすい単語、計算方法を学んだ。塾などで家庭学習へのアドバイスや新しい解き方を教わることで、一つの問題に対して、様々なアプローチの仕方や類題があったな など考えられるようになった。英単語テストは小テストで突破することが目的ではないと意識した。

+5

- ・数学では、解きやすい小問を解いてゆき、残りの時間で別の難しい問題を解く
- ・分からない問題をとばす
- ・まずは偏差値 50 を目指す

※)波線部は加筆

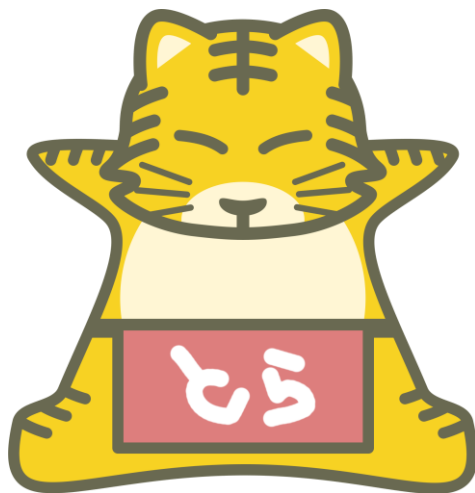
どうですか？ これらの人たちは、前回の模試の結果を踏まえ、11月の進研模試に向けて具体的に学習行動を改善し、それが結果に表れた人たちです。みなそれぞれ考え行動したのに、結果的には共通点があります。それは、①課題や過去問など、学校で課されたことに主体的に取り組んでいる。②これらのことは理に適っている ということです。そしてこれらのことは、先生方が常日ごろ指導して下さっていることですね。先生方が指導することを、誠実に粘り強く実践できた生徒が「躍進賞」を受賞した生徒なのです。1月15日の進研模試は躍進賞100名を目指して頑張りましょう。

◆ 1月の予定 ◆

日	曜	行 事	備考
1	土	元 旦	学校完全閉庁(~1月3日)
2	日		
3	月		
4	火		
5	水	冬期学習会(午前中)	1月の進研模試に向けて頑張りましょう
6	木	冬期学習会(午前中)	1月の進研模試に向けて頑張りましょう
7	金	学校再開(大掃除・年次集会・LHR・金曜3校時以降の授業)	ジャージ持参
8	土	土曜学習会	1月の進研模試に向けて頑張りましょう
9	日		
10	月	成人の日	
11	火	スキー教室事前指導(7校時)	7校時はスキー教室の事前指導です
12	水	スキー教室	
13	木		
14	金	小論文ガイダンス・特別講演会「富士山の火山噴火とその防災」	
15	土	進研模試	3年生は大学入学共通テスト1日目
16	日		3年生は大学入学共通テスト2日目
17	月		
18	火		
19	水	5短 文化局発表会	感染症拡大防止のため、外部公開は行いません
20	木	5短 文化局発表会	感染症拡大防止のため、外部公開は行いません
21	金	小論文模試 英検	
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水	大掃除	ジャージ持参
27	木		
28	金		
29	土	土曜学習会 駿台模試	
30	日		
31	月	前期入試準備	2月1日は前期入試につき家庭学習日となります

◆ 保護者の皆様へ ◆

令和3年も残すところあと1週間となりました。今年も感染症に振り回される1年となりましたが、1年生は欠席も少なく元気に登校するなどよく頑張りました。来年は感染症が収束し、生徒たちが不自由のない学校生活を送ることができますように。来年もよろしくお願ひ申し上げます。



編集後記

1年次通信 Vol.9で「突然ですが、私は40歳の時に受けた健康診断で人生初の“C判定”になってしまいました。」という記載が誤解されているようなので弁明します。これは、健康診断において初の“C判定”ということで、学生時代の模擬試験の判定も含めて初の“C判定”ということではありません。(そもそも私は第一志望の大学を受験する3か月前の模試の判定はD判定でした)

ところで、令和4年は寅年です。寅といえはわが^{とら}虎^{タイガース}は、前半戦は首位を独走していたものの、後半戦は大失速し、2度目の日本一はおろかりーグ優勝も逃してしまいました。タイガースファン歴^{≒年齢}の私が思うに敗因はエラー＝ミスの多さだと思います。対照的に日本シリーズを制したヤクルトは、素晴らしい組織力でミスも少なく、90年代の野村監督時代を思い出させる強さでした。

来年は寅年だけに、タイガースが日本一になってくれることでしょう。これを読んだタイガースファンの人は気軽に話しかけてください。

(小 俣)